

第107回 全国高等学校野球選手権大会

西東京大会 2回戦 2025年7月10日(木)

球場 府中市民		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	計
プレイボール 12:02	田柄	0	0	1	0	0											1
ゲームセット 13:55	多摩大聖ヶ丘	6	2	5	7	X											20

先攻	田柄	後攻	多摩大聖ヶ丘	備考
投手	青木	投手		【二回戦】
捕手	鬼塚	捕手		
本塁打		本塁打		
三塁打		三塁打		
二塁打	瀧澤	二塁打		

TN	1	2	3	4	5	6	7	8	9
田	2	6	8	1	4	5	9	3	7
柄	鬼	三	瀧	青	山	筒	マ	辻	
	塚	城	澤	木	田	井	ド	井	

< 顧問よりご挨拶 >

部員たちが本気になれた1年が終わりました。選手たちはもちろんのこと、私自身も試合直後、これまでにない達成感と感動、うまく言えない安心感に心が包まれました。どこの学校でサポートしていても野球部の顧問は大変ですが、ここの学校では今まで経験したことのない未知の大変さがあったのだと思います。奉職当初は、グラウンドがひどく荒れており、活動しようにも環境が追い付いていない状態でした。部員もマネジャーと選手1名という中、まずは私自身が「やればできる」という気持ちになって生徒を引っ張っていかなくてはと思ったのです。それから、練習はすべて一緒にやるというスタンスを貫いてきました。

瞬時に思ったことを指示したくなることもありましたが、ここでは教えることよりも「生徒の定着力などを見極めながら次のステップへリードするサポート」が必要だと次第に気がきました。また、一緒に練習をしていると、物事をpositiveに捉えられるが、徹底することが苦手なことにも気がついたので、選手同士で決めたことを徹底できるよう、1年間サポートしてきました。

グローバルで事情も様々な選手が集まったので、「輪になって野球をしよう」・「本当の楽しさを追求しよう」が私たちの野球観でした。昨年は9年ぶりの単独出場を達成しましたが、今年は17年ぶりの夏1勝の目標には届きませんでした。しかしながら、自分たちの野球観を大切にできた点で生徒たちは大きな成果をあげたと思います。「みんなで何かを成し遂げることは、純粋に楽しい」、これが田柄高校野球部のcore valueです。また新しい1歩を踏み出しますが、このことを忘れずに活動していこうと思います。(顧問：大久保 壮拳)



5カ国ルーツ ひとつの輪に

第107回 全国高校野球選手権
東・西・東京大会
主催/朝日新聞社・読売新聞



試合前の整列に向かう田柄の選手たち—府中市民

田柄のグローバル・ベースボール

夏輝く

大きく点差をつけられた四回裏、田柄の鬼塚ノエル（3年）はマウンドに集まった内野陣に大久保壮幸監督の指示を伝えた。「みんな集中して乗り越えよう」

親が外国籍など海外とつながりがある生徒が多い同校。野球部にもフィリピン、パキスタン、中国、ネパールと関わりがある部員がいる。そんな部のモットーは「5カ国ルーツの選手がつくるグローバル・ベースボール」だ。

捕手の鬼塚は母親がフィリピン出身。日本生まれだがフィリピンで育ち、4歳で再び日本に。体重100kgの超の恵まれた体格を生かした長打力が武器だ。

右翼を守ったサルワルアハマド（2年）はパキスタン生まれ。9年前、日本で飲食業をしていた父のもとへ来た。クリケットの経験があり、中学2年で野球を始めたが、勝手が違う。「難しくてやめようと思ったけど、ユーチューブでイチローの動画を見て、再び興味があった」

背景にある文化が違えば、野球に対する考えも違う。主将の青木琉人（3年）は「みんなが助けあい、ひとつの輪になる田柄の野球ができたと思う」。

体調不良の部員がいたため、9人ぎりぎりでの臨んだこの日の試合。ベンチからは中国語の声援も飛ぶなど、最後まで声が途切れることはなかった。大久保監督は「みんなが助けあい、ひとつの輪になる田柄の野球ができたと思う」。

府中市民（西田昇）

カラー充実 紙面ビューアー



読者は
こちら